

～地域ぐるみで行う鳥獣被害対策支援事業～

(重点支援地区) 鶴岡市添川地区〔令和3年度実施地区〕

■ 実施体制

- 実施主体：添川鳥獣被害対策協議会
- アドバイザー：鈴木 淳 氏（かさなりデザイン合同会社）
- コーディネーター：庄内総合支庁農業振興課
庄内総合支庁農業技術普及課

■ 地区のプロフィール

- 地区内の戸数：147戸うち農家数54戸
- R2被害状況：被害額 1,115千円 被害面積 559a
- 主な被害作物：水稲、果実、孟宗など
- 主な加害鳥獣：イノシシ、ハクビシン



1. 取組のきっかけ

- 近年、庄内地方の中山間地域にイノシシの生息が確認され、農作物への被害も確認されている。旧藤島町の添川地区においては、鳥獣被害対策協議会を組織し、猟友会による捕獲・電気柵の設置等の対策を実施してきたが、個人による対策では効果に限界があった。
- また、イノシシ以外にも、ハクビシン等他の獣種と思われる被害も発生しており、集落単位での被害対策の必要性を感じ、令和2年度から重点支援地区として「地域ぐるみで行う鳥獣被害対策支援事業」のモデル地区として取組みを実施している。

2. 取組の内容と特徴

●令和3年度取組みについて関係者による打合せ

地域の代表者、県、市が集まり、昨年度の取り組みの成果と課題を共有。継続した鳥獣対策の必要性を認識し、今後のスケジュール等について打合せを行った。

●講義と電気柵設置（7/31開催）

昨年度のおさらいとして、有害鳥獣に対する各種侵入防止柵について講義を受けた。その後、効率的・効果的な設置方法の指導を受けながら、実際にモデルほ場に電気柵設置を行った。設置経験者が未経験者に教えながら設置を進めるなど、対策意欲の高まりを感じた。

●ハクビシン等小型獣類被害対策研修（10/30開催）

住民からの要望が多くあった柿の木への電気柵の設置とハクビシン等小型獣類に対応した複合柵の設置研修を行った。これまで電気柵は水田への設置が中心であったが、果樹へ設置する際のポイントを教わった。ハクビシン等小型獣類に対しては、電気柵と廃材を組み合わせることにより、効果的かつ安価な侵入防止柵を作ることができた。イノシシだけではなく、小動物に対しても電気柵が有効であることを実感した。

●鳥獣被害マップ及び対策計画シートの作成（11/27開催）

集落地図に土地利用状況、出没鳥獣種等の情報を書き出し、鳥獣被害マップを作成した。また、侵入防止柵、環境整備、捕獲の3分野を中心に今後の集落の計画を対策計画シートに書き出し、検討した。集落での将来的な生活について考える機会となった。



講義「各種侵入防止柵について」



侵入防止柵設置研修

3. 成果と今後の展望

- 本事業で知識や技術を習得した者がリーダーとして地域住民にアドバイスする流れが見られ、「地域ぐるみ」の対策への意識の高まりが見られた。マップの作成により、集落内の問題箇所を再認識しており、今後改善に向けて、会合などで議題にしていく。
- 将来を見据えた対策を継続させるために、本事業終了後も地区内広報での情報発信、勉強会の開催を続けていき、集落外に対してもこれまでの経験を発信していきたい。